

事例報告－6

森林環境教育（森林E S D）プログラム分析シート

プログラム名： 「森の探検隊」		箕面森林ふれあい推進センター
(1) プログラムの目標	森の中で、ポイントごとに置いている指令書（設問）とヒントから、回答を考えたり体験をしたりしながら、森林について考えたり、五感を使つての体験から学ぶ。 「森の探検隊」プログラムや箕面ビジターセンター見学などから、身近にある森林やそこに生きる生物を知ること。 また、自分たちの生活に、森林や生き物がどのように関わっているのかを知ること。 そして、今の森林の現状を理解し、どのように関わっていく必要があるかを学ぶこと。	
(2) プログラムの概要	午前中は、「森の探検隊」プログラムを実施し、午後からは、箕面ビジターセンターで、箕面の生き物展示の見学と水生昆虫の観察、木の実を使った木工作品作りを行う。 「森の探検隊」では、4～5名の班で役割分担をして行動する。ポイントで指令書の設問を考え、探検ノートに答えや感じたことなどを記入する。各班には補助者が1名ついて、助言をする。 30数ポイントの中から、各班で事前に決めたポイント（5ポイント以上）を回る。ポイントの内容は、森林・昆虫・動植物に関することや体験などがあり、各班共通として、風や鳥の声を感知するポイントと鹿による被害を考えるポイントを回るようにしている。 ポイントで知ったことや考えたことをビジターセンターの展示で確かめたり、水生昆虫観察から森林と川（水）について考えるなど、学習を深める。 また、木の実などを使った作品作りで、木や自然により親しむ体験をしてもらう。	
(3) プログラムの展開		
活動内容について、プログラムの流れで、記載する。 合わせて、段階的な学びとして、3つのタイプのアクティブ・ラーニング（in、about、for）の視点で活動内容を区分してみる。 ・ in（～の中で）－ 体験、観察、製作など（関心・意欲、知識・技能） ・ about（～について）－ 情報収集・分析、情報交換、討論など（知識・技能、思考・判断・表現） ・ for（～のために）－ 提案、実践など（態度、参加・行動）		
時間数	プログラムタイトル	
	活動内容	指導・支援の方法、ポイント等（教材等）
in、about、for の視点で活動内容を区分		
4	森の探検隊のための準備	
	先生との打合せ 先生との現地下見 探検ポイントをグループで決める グループ内の役割分担を決める	先生に「森の探検隊」について、理解してもらう。 下見により、先生に楽しさを理解してもらう。 安全対策として、服装や支援児童への配慮など、注意すべきことをお互いに確認する。 回るポイントの振り分け、役割分担をしてもらう。 当日の服装など親への注意喚起をしてもらう。
	about－情報の共有、安全対策	
2	森の探検隊	
	探検隊の補助者	子どもたちが自分たちで考えることを優先し、学習が深まるように助言をする。また、森林や生き物について考えることや体感してもらうを通して、体験から学んでもらうように取り組む。 鹿の被害や防止対策から、森林の現状を知ることや何が必要かを考えてもらう。
	in－森の中での体験	
2	フォトフレーム作り、自然工作、水辺の生き物調査、ビジターセンター見学	
	ビジターセンターで箕面に生息する生き物や植物について学ぶ 水生昆虫観察で昆虫の生態や森と川（水）について学ぶ 森で拾った木の実や葉っぱを使ってフォトフレームを作成する。 木の実などを作って自然工作をする。	4つに分けて、時間を決めて回る。 各コーナーで指導者がついて、指導する。 地元の箕面の山に生息する生き物や植物を知ること。 川の状態（きれい・汚い）によって、生息する水生昆虫の種類が違ってくることや箕面の山の川がきれいなこと、森林と川との関係を知る。 自分たちが飲んでいる水について考えること。 木の実などの自然にあるものを使って作品を作ること で、親しみを持ってもらう。
	in－工作、生き物展示から、体験や観察から学ぶ	
2	発表会	
	発表会に参加する	子どもたちの発表を聞き、子どもたちがこの取組を通して何を学んだかを知ること。 今後の取組に対する反省点や改善点を把握する。
	for、about－発表資料の作成、発表する、箕面の森のためにできることを考える	

(4) プログラムでの連携内容

(教育機関、地域、団体等での、①連携・協働先、②役割分担、③具体的な連携・協働の内容)

1. 豊川北小学校 4年生 「森の探検隊」プログラムを实践
2. 大阪青山大学 「環境」の授業として、今年度初めて、学生に体験してもらう。
3. 大阪森林インストラクター会 「森の探検隊」の補助者として、各班について助言を行う。
4. みのお山麓保全委員会 箕面ビジターセンターの運営団体で、ビジターセンター施設の見学、水生昆虫観察の指導、木工クラフト作りの指導を行う。

学習指導要領との関連 (例 小学校)

1年	生活：身近な自然の観察、利用
2年	生活：生き物を育てる、成長
3年	社会：飲料水、地域の生活 理科：昆虫と植物（自然の観察、植物を育てる）
4年	社会：都道府県の様子・生活 理科：季節と生物（身近な植物の成長、季節による違い）
5年	社会：国土の自然・環境、国土保全 理科：植物の発芽、成長、結実
6年	社会：歴史上の事象、文化財 理科：生物と環境
総合的な学習	横断的・総合的な課題の学習、社会体験、討論・発表
特別学習	遠足・鑑賞、集団活動・生活

森林環境教育の視点

1 感性的経験	感性的な内容 — 森林の感覚的把握や美的把握、畏敬の念など
2 自然的特性	森林の自然的特性に関わる内容 — 植物や動物の生態など
3 多面的機能	森林と人とののかかわりに関する内容 — 森林の働き、保安林など
4 現状・課題	森林の現状に関する内容 — 森林の荒廃、人手不足など
5 管理・維持	森林の管理・維持に関する内容 — 森林整備、育成、維持、管理など
6 歴史・文化	森林とのかかわり方の歴史 — その土地での歴史、薪炭林、炭焼き

(5) 活動の分析（学習指導要領との関連または森林環境教育の視点） 上位3項目

教科・項目、視点		学習内容
感性的経験	森林の中に入ること 風を感じる 鳥の声を聞く	地元にある森の中に入る体験をすることで、身近な自然環境を知る。 展望台で風を感じたり、森の様子を見ることで気持ちがいい感覚を感じるなど、体感する。
自然的特性	木、植物、動物、昆虫を知る	自分たちの身近にある箕面の山の動物や植物を知ることで、自然への関心を深める。 水が山から川に流れてきていることを認識する。
現状・課題	鹿による被害を知る 対策を知る どうしたらよいかを考える	箕面の山が鹿の被害にあっていることや森を守らないといけないことを知る。 子どもたちに、箕面の山の素晴らしいところをみんなに知ってもらいたいとの思いが生まれ、伝えたいに繋がる。

(6) 活動の分析 (資質・能力の視点)				
E S Dの要素 (生きる力)	能力	1 批判的に考える力	態度	5 他者と協力する態度
		2 未来像を予測して計画をたてる力		6 つなぐりを尊重する態度
		3 多面的、総合的に考える力		7 進んで参加する態度
		4 コミュニケーションを行う力		
資質・能力 三つの柱	①生きて働く「知識・技能」の習得			
	②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成			
	③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養			
次期学習指導要領では、持続可能な開発のための教育（E S D）等の考え方も踏まえつつ、「生きる力」とは何かを、「資質・能力」（三つの柱）に沿って具体化するとしています。 活動を、三つの柱の項目に再整理して記載をしてください。（該当がない項目は空欄）				
項目	E S Dの要素（7つの能力・態度）の視点で見つめ直して、 もっとも重視する視点の内容を記載してください。			
①生きて働く「知識・技能」の習得	「多面的」 森林の中で、木や植物、動物のことを観察することや生活の中で利用していることに繋がっていることを理解する。 実際の森林で活動することで、生息する動物や植物について興味・関心を持ち、森林についてより知ろうとする意欲が伸びる。 森林環境を守るために自分たちができることを考えるなど、自然との関係を考えるきっかけとなる。			
②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成	「コミュニケーション」 活動を通して、自分の役割を果たすだけでなく、グループの中で助け合い、意見を交わしながら、ポイントの設問の答えを考えることができる。自分の意見を押し通すのではなく、友だちの意見を尊重することができる。 子どもたちそれぞれがグループで活動することによって、意見を交わし合い、行動を選択できる力が身に付く。			
③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養	「協力」 グループとして伝えたいことを一人で作るのではなく、仲間と推敲し、良いものを作ろうとする姿勢が成長する。 自分の役割外のことでも進んで協力しようとする協調性が身に付く。 何事にも進んで取り組み、仲間と共に何かを成し遂げようすることができる。			
(7) 実施後、参加者の変化				
「箕面の森の森林は素晴らしい」「こんな良いところが箕面にあったなんて知らなかった。また、来たい。」など自然を感じることの素晴らしさに気付いてもらった。 鹿柵や木の皮を剥いだ痕、鹿のフンなど、鹿との闘いを知ってもらうポイントを回ったことで、子どもたちの発表からも鹿の被害を伝える発表が多くあり、理解を深めるきっかけとできた。				
(8) プログラムの今後のめざす方向・展開				
森の探検隊プログラムは半日で行えるため、午後のプログラムを箕面の山についての展示をしている「箕面ビジターセンター」の見学や水との関連がある箕面川ダムの見学、森林散策など、いろいろな学習プログラムを提示できるようにして、先生が授業との関連付けを考えて選択できるように計画する。 「箕面ビジターセンター」では「NOP法人みのお山麓保全委員会」の協力で、ビジターセンターでの展示内容の解説や木工クラフト作成、川の観察などのプログラム実施の協力体制ができた。				
(9) 現状での課題、質問事項など				
学習ポイントをどのように設定するかがポイントであるので、子どもたちの発表を通して、学ぶことや先生に理解してもらうことでの学習効果に繋がると考える。 また、環境学習として「森の探検隊」プログラムによって、どのような学習に繋がるかを実践事例から紹介できるようにさらなる事例の収集に取り組む必要がある。				